

新会社が『黒字』になる訳がない！

日刊 動労千葉

87. 6. 17

No. 2578

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

今年度事業計画での「黒字」はペテンだ！！

六月八日、旅客、貨物の七社は、今年度の事業計画を運輸省に申請した。これによると、七社すべてが初年度からの黒字を見込んでいる。昨年まで年間一兆円以上の赤字を出していた国鉄が、「4・1」を過ぎたらすぐに黒字になるといふざけたはなしがあるだろうか。全くのペテンだ。ペテンに塗り固められた「分割・民営化」体制は粉碎されるべきだ。「6・20集会」を基点に、動労総連合の強化拡大をかちとり、分割・民営化にトドメをさそう。

クビ切りと賃金抑圧で「黒字」

八日に各社から運輸省に出された申請は、来年三月までの収支計画と営業方針などを各社が独自にまとめたもので、七社すべてが初年度からの「黒字」を見通している。

その理由として、特に見逃すことができないのは、営業費用の三分の一を占める人件費が大幅に減っていることだ。すなわち、当初の予定より希望退職者が増え、定員割れが生じ、人件費が浮いたことと、政府が三割と見込んでいた今年度のベースアップが、鉄道労連などの屈服で、〇・九五割と抑えられたために、人件費が三八〇億円減ったためというのだ。つまり、労働者の「クビ切り」と賃金抑圧で「黒字」になったと言っているのだ。

今だに七・三%の利子計算

今回、各社が出した事業計画での今年度「黒字」は全くのペテン、数字合わせとしか言いようがない。

三月三十一日まで「赤字だ」と騒ぎ続けてきた国鉄が、四月一日を過ぎたらすぐ「黒字」などということはどうしてありえようか。絶対にあるはずがない。東海会社などは、八千二百億円の収入のうち五〇%が新幹線使用料として無条件で払われ、さらに各社は、「新会社」

に振り分けられた「赤字」の利子を今だに七割以上の高利で払っている。

東日本会社では一〇%以上が支払い利子となっている。

利子の点で言えば、北海道、四国、九州の収入については、「三島基金」から生ずる利子年利七・三%を繰り入れて「黒字」といなおっているのだ。そもそも今どき、七・三%もの利子をつける銀行がどこにあるというのか。市中利子の倍も高く見積っているのだ。

こんな会社が「黒字」になるわけがないのだ。完全なペテンだ。

「黒字」イデオロギー粉碎

このように、労働者に対して「黒字」を押しつけ、労働強化を強いる「分割・民営化」体制こそ粉碎されるべきなのだ。当局・鉄道労連による「黒字」イデオロギーを粉碎し、労働者の犠牲の上に成り立つ「新会社」を粉碎せよ。

「6・20集会」へ総決起し、反撃体制を打ち固めよ。

動労千葉とたたかう国鉄労働者を はげまし連帯する6・20集会

★6月20日(土)5時30分開場 東京・牛込公会堂

★呼びかけ人

- 浅田 光輝(立正大学教授)
- 鎌倉 孝夫(埼玉大学教授)
- 北原 敏治(三里塚山陽分會)
- 佐藤 芳夫(委員長)
- 高島喜久男(労働運動評論家)
- 永井 満(反分割同代表)
- 宮島 義勇(映画監督)
- 八重樫友美(全日本山労組委員長)